

■ 教育目的

化学物質の体内での代謝と生体への有害作用、解毒処理法、化学物質の法的規制について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、YD-⑤、SD-②、SD-④】

■ 学習到達目標

1. 代表的化学物質の毒性の発現機序を説明できる。(知識)
2. 薬毒物の代謝について説明できる。(知識)
3. 化学物質による中毒と処置法について説明できる。(知識)
4. 化学物質の法規制について説明できる。(知識)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：教科書に目を通しておくこと。(20分以上)

復習：講義内容について整理しておくこと。(40分以上)

■ 授業形態

講義

■ 授業内容

化学物質の体内での代謝と化学物質の健康への影響について、また、解毒処理法、化学物質の法的規制について解説する。

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	異物の体内動態	ADME	D2(1)-①-1
2	異物代謝機構(1)	第Ⅰ相反応に関わる代謝・代謝活性化	D2(1)-①-1 D2(1)-①-3,4
3	異物代謝機構(2)	第Ⅱ相反応に関わる代謝・代謝活性化	D2(1)-①-1 D2(1)-①-3,4
4	異物代謝機構(3)	異物代謝に影響を及ぼす因子	D2(1)-①-1 D2(1)-①-3,4
5	化学物質の毒性(1)	化学物質と発がん	D2(1)-③-1,2,3 D2(1)-①-5~7
6	化学物質の毒性(2)	化学物質と発がん/化学物質による組織障害	D2(1)-③-1,2,3 D2(1)-①-3,4
7	化学物質の毒性(3)	化学物質による障害	D2(1)-①-4 D2(1)-②-5
8~9	化学物質の毒性(4)	無機物質による障害	D2(1)-①-3,4
10	化学物質の毒性(5)	有機物質による障害	D2(1)-①-3,4
11	化学物質の毒性(6)	乱用薬物	D2(1)-①-5
12~13	化学物質による中毒とその処理	中毒動向、代表的中毒物質の試験法と解毒処理法、薬害事例	D2(1)-①-6,7
14~15	化学物質の安全性評価と規制	毒性試験の評価法(量-反応関係、閾値、無毒性量)、ADI及びTDIの定義と各計算方法、化審法および化管法、一般毒性試験と特殊毒性試験	D2(1)-②-1~5

■ 授業分担者

C組 服部 研之

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

- ・講義資料をMY-CASTにアップロードし、随時質問等に応じる。
- ・期末試験の成績(100%)で評価をする。

■ 教科書

『衛生薬学 基礎・予防・臨床 改訂第4版』今井 浩孝・小椋 康光 編(南江堂)

■ 参考書

『必携・衛生試験法』第2版 日本薬学会 編(金原出版)

